

第4回 生駒市総合計画審議会（全体会）会議録

開催日時 令和5年9月7日（木）10時00分～12時00分

開催場所 市役所 大会議室

出席者

（委員）大谷委員、清水委員、田中委員、久委員、森委員、伊藤委員、楠委員、
鐵東委員、中垣委員、藤尾委員、松山委員、上山委員、山上委員

欠席者 高取委員、和田委員

（事務局）小林市長公室長、坂谷市長公室次長、牧井企画政策課課長補佐、
桐谷企画政策課企画課員、岩川企画政策課企画課員

（事業者）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 島崎主任研究員

議事内容

1 開会

2 案件

（1）第2期基本計画（案）の策定について

（2）その他

3 閉会

以下、発言要旨

1. 開会

【事務局】 （開会宣告、配布資料確認）

以下、発言要旨

2. 案件

（1）第2期基本計画（案）の策定について

【久会長】 今回は、第2期基本計画の総論の素案について審議するが、内容が多岐にわたるため、章ごとに審議を進めることとする。

それでは、「序章」について、事務局から説明をお願いする。

【事務局】 （資料1 序章（P.1～6）について説明）

- 【久会長】 序章について、何か意見はあるか。
- 【その他委員】 意見無し
- 【久会長】 続いて「第1章 生駒市の概況」について事務局から説明をお願いする。
- 【事務局】 (資料1 第1章 (P. 7～9) について説明)
- 【久会長】 「第1章 生駒市の概況」について、何か意見はあるか。
- 【清水委員】 総合計画については、市民をはじめ多くの方が見るものである。写真や図について、画質や文字サイズを調整する等、よりわかりやすくする必要はある。
- 【久会長】 P. 7について、記載している内容は地勢の成り立ちであるが、図は土地利用を示すものである。意味が異なるので相応しい写真を再考されたい。
続いて「第2章 本市を取り巻く社会環境」について、事務局から説明をお願いする。
- 【事務局】 (資料1 第2章 (P. 10～28) について説明)
- 【久会長】 第1期基本計画と同じ内容を記載すると、今までの課題が解決されていないということになる。第1期基本計画と比較して、解決したものと残っているものを精査するとともに、課題解決に至らなかった要因も併せて分析されたい。また、各論とのつながりを考慮しつつ、適宜修正されたい。
- 【田中委員】 P. 13の公共施設の老朽化に伴う更新について、維持管理の効率化は理解できるが、市民のニーズや満足度に合った再編計画が必要である。単に施設を廃止するだけでなく、機能の集約化・複合化等も含めて

慎重に検討されたい。

【久会長】 P.13の公共施設の老朽化に伴う更新については、行政目線の記載が多い印象である。市民生活を支える公共施設であるため、市民目線の文言を強調する等工夫されたい。

【大谷委員】 P.20について、児童生徒1人1台端末を活用して、主体的かつ対話的な深い学びを実現することと、Ma a Sの技術を活用した交通利便性の向上を併記することに違和感がある。教育と交通は別で記載した方が良い。

【久会長】 いわゆる交通の利便性や効率性を測るために使う技術と、生活の向上あるいはその不安を解消するために使う技術では使い方が異なるため、記載方法は整理されたい。

Ma a Sという言葉は専門用語であるため、用語解説もしくは説明文の追加が必要かと思うが、どのように記載する予定か。

【事務局】 ページ内での注釈や資料編にまとめて記載する等、検討中である。

【久会長】 用語の意味が理解できなければ、文章を理解できないため、説明内容の記載場所は工夫が必要である。例えば、交通に関する内容を理解してもらうためには、Ma a Sの説明を近くに記載した方が分かりやすいこともある。

続いて「第3章 まちづくりの総合指標」について事務局から説明をお願いします。

【事務局】 (資料1 第3章 (P. 29～30) について説明)

【久会長】 指標を選んだ理由や数値の設定根拠等、EBPMの観点から丁寧に説明することで考え方を共有できる。

【田中委員】 総合指標②「住んでいる地域が住みやすいと感じる市民が増える」ことが、「生駒にいつまでも住み続けたいと思う市民が増える」ことに繋

がるエビデンスはあるか。また、総合指標③「まちや地域をより良くしていくための活動に参加している市民が増える」について、参加しているかどうかの数値のみを追うことが良いのか。主体的に参加している方と輪番制で参加している方では、活動の意味が異なるので、活動の質を求めていくのか、量を求めていくのか考える必要がある。

【事務局】 総合指標③について、前回の総合計画審議会では「活動したいと思う市民の割合」を記載していたが、活動したいと思うことと実際に活動することは異なるので、今回は「活動している市民の割合」を案としている。

市民実感度調査での質問項目が「積極的に活動している」と読み取れるようになっているため、結果は低値となっていると推察している。質問項目の変更も検討したが、結果の推移を追うことが難しくなるため、現状通りを予定している。

総合指標②については、市民実感度調査では、まず市内での定住意向や暮らしの満足度等を質問しており、その後、総合指標②に掲げる質問を行うので、関連しているものと考えている

【久会長】 統計的な読み取り方が甘いと感じている。総合指標のつながりについても、単純集計やクロス集計だけでなく、統計分析を活用することで関連性が示されるので、感覚に頼らない説明が求められる。

【伊藤委員】 総合指標①「生駒市への転入者数」について、移住を市民に薦めたい人の割合が減少しているが、転入者数は増加している。また、現在も大規模宅地造成が進んでおり、今後も人口は増加傾向になるのではないか。

【事務局】 生駒市の特徴として、市内転居が多く、大規模開発が外部からの人口流入にすべてつながるわけではない。開発だけでなく、賃貸物件等、若い世代が選ぶ住宅ストックを増やすことで、掲げている総合指標の達成に近づくものと考えている。

【久会長】 全国的に人口が減少しているのに、転入者数を増やすという目標に違

和感がある。時代背景も考慮して、社会増減をプラスマイナス0にすることや、人口の微増を掲げることも問題はなく、施策の実効性や有効性も高まると考える。

生駒の特長として独り暮らしができる物件や適切な家賃の賃貸物件が少なく、就職や結婚等を機に市外に出ざるを得ない環境だと感じている。現状を分析して、生駒からの人口流出を防ぐ取組も大切ではないか。現在の指標は厳しい設定であると感じる。

【清水委員】 総合指標②について、令和元年度から極端に落ちているので、それ以前の状況はどうだったか伺いたい。以前の数値が高いのであれば、そこまで戻すという目標でも良い。

総合指標③については、ちょっとした名もない活動や活動を意識すること自体も地域への関わりであると思う。そういった活動が地域につながっていることを意識してもらえるような取組やアンケートも良いのではないか。

【楠委員】 総合指標①について、200人の人口増は難しく、人口の維持が適当でないか。人口増を目指すのであれば、どのような戦略で増やしていくか、要因分析のうえ明確にする必要がある。無理して高い目標を設定する必要はない。

総合指標③について、市民の心理として、アンケートに回答する際は謙虚になることから、数値が低い状況にあるのではないかと推察される。市民活動は量が大切であると感じている。市民活動への入り口のハードルを低くして、地域に関わるきっかけを増やし、門戸を広げていくことが必要である。

【久会長】 総合指標①と②は、総合的に追いかけていくこと必要な指標だと思う。総合指標③については、この4年間で生駒市として、特に重要であると考えて設定されていると理解している。まちづくりを進めていくうえで、協創が大きな一つの柱とするならば、市民の自発的な活動が自己実現につながり、結果としてまちをよくしていくことにつながることを説明できる。他にも様々な指標がある中で、なぜこの指標を選んだのかを説明できるようにされたい。

【松山委員】 総合指標①について、本市の良さを市外の人に知ってもらわなければ、転入者は増えない。子育て世代に向けて、生駒市の環境面などの良さを全国的に伝えるか考え、PRしていくことで、人口が増える可能性はあると思う。

【久会長】 補助やサービス等を充実させることで、転入する人は増加するが、他市でより良いサービスが出てくると、他市へ移ってしまう。行政サービスを享受することだけを考えている人の転入が増加することが、果たして持続可能なまちづくりの点から考えてよいのかどうか、注意する必要がある。総合指標②や総合指標③のように、生まれてからずっと生駒市を気に入って、終の棲家にする覚悟を持つ人を増やしていかないといけない。

また、市役所職員は人口減少に対する危機感がないように感じる。大学では、学生数が経営に直結するため、学生の確保に向けて戦略的に取り組んでいる。各論の作成においても、総合指標①とのつながりを意識されたい。

続いて「第4章 施策体系」について事務局から説明をお願いします。

【事務局】 (資料1 第4章 (P.31) について説明)

【鐵東委員】 まちの空間という言葉は、一般的に三次元的なイメージがある。まちのデザインにすることで、どのようなまちになるのかをイメージしやすいのではないか。

【久会長】 「まちづくり」を「街づくり」と表現してはどうか。ひらがなの表記は意味が多岐に渡るが、「街づくり」では建物の整備などの意味と捉えられる。

また、「デザイン」という言葉は違う意味合いで捉えられる可能性がある。地理学でいう景観は、まさしくこの空間づくりのことであり、いろんなものが組み合わさって景観が作られるというようになるが、普段使われている景観という言葉は、建物のデザインや色等の狭い意味で捉えられがちである。今後、各論を議論する中で、適切な言葉に変えてい

くよう時間をかけて検討されたい。

【事務局】 部会において、施策名を検討する。

【久会長】 市民自治活動という表現について、自治という言葉の中に活動は含まれるため、活動という言葉が2回出てくる印象である。施策名については、部会で議論しながら検討されたい。

【伊藤委員】 市民自治活動・学びについて、学びはかなり広い意味で使用される言葉であり、市民自治活動とどのようなつながりがあるかわかりにくい。表現方法等精査が必要であると感じる。

【久会長】 尼崎市では、市民自治を生涯学習の一部と位置付けている。自分たちで地域を良くしていくためには学びが必要であるため、市が学びの機会を提供している。また、学びの延長上に市民自治があり、自治会や近所の関係性の中にも学びがあるという考えである。生駒市は、この両者を並列で考えていくということだと思う。

【事務局】 実際の市民活動は、カテゴリーに沿って実施されるものではない。あくまで、行政がカテゴライズするための表現なので、現在作成している施策シートの内容によって印象が変わる可能性がある。

【久会長】 生駒市では、生涯学習センターとコミュニティセンターの名称を使い分けており、それぞれの施設に込められた意味があると思うが、市民の多くは活動のための会議室として捉えている。施設名称と活動の関係が、施策1の名称を設定した根底にあるのではないか。各施策の内容で体系の表現も決まってくると思う。各部会で検討されたい。

【事務局】 各論の施策シートの作成に向け、職員でのワーキングを実施した。先ほどの総合指標でも挙げたように、市民が主体的に活動していくことが大切だと考え、生涯学習という自身の学び、得意とすることをいかに活動に繋げていくのかを意識して、複数課が連携して施策シートの作成に取り組んでいる。

【久会長】 続いて「施策5 戦略的施策」について、事務局から説明をお願いする。

【事務局】 (資料1 第5章(P. 32~37)について説明)

【鐵東委員】 生駒駅南口について、自分自身が子どもの頃と変わっていないと感じる。利便性や住環境の面では魅力があるにもかかわらず、駅前がさびれているというだけで、生駒市出身の若年層は他の自治体に魅力を感じてしまう。生駒駅前を計画的に変えていくよう、思い切った取組も含めて検討していく必要があるのではないか。

市の玄関口である生駒駅周辺のイメージアップを図ることが、市全体のイメージアップにもつながる。

【久会長】 各論と戦略的施策の関係や、デジタル田園都市構想総合戦略のアクションプランとの連携や棲み分けをして、生駒駅南口の再開発をしていくかということだと思う。第5章は、かなり多岐に渡る内容を記載するため、総合的に記載しないとアクションプランに繋がらなくなるのではないか。その辺りを整理して、生駒駅の南側について具体的にはどこに書くのか。

【事務局】 戦略的施策の作成にあたり、現在各論の作成をしているところだが、各論の表現とも整合を取って記載をしている。特に鐵東委員からご指摘があった生駒駅南口周辺については、各論の施策の方向性に記載するとともに、具体的な取組についてはアクションプランに記載する想定である。

【久会長】 郊外のニュータウンとしての住みやすさをだけでなく、駅前に活気があるか等を問うと、駅前の印象等を把握するために効果的ではないか。

【事務局】 資料2のとおり、子どもを対象にアンケートを実施し、生駒市の好きではないところを問うている。その中で、中学生からは「店舗が少ない」という意見が多く出ている。

【清水委員】 戦略的施策における生活、社会、都市構造のうち、都市構造の部分が少し弱い印象である。都市構造、いわゆるハード面の部分について、記載する順番や表現を改めることによって、伝わり方も変わると思う。

【久会長】 記載する順番や書きぶりを変えると分かりやすくなるのではないか。
例えば、P.37(1)地域資源を活用したまちづくりについて、現在の案は生駒駅南口の再整備の話と、公園の利活用の話が同じレベルで混ざっている。拠点の再整備と、身近な公園の利活用は分けると良いのでは。また、費用をかけて再整備をするやり方もあるが、市民と一緒に地域資源を活用しながら魅力向上に取り組む内容が混ざっているので文章を整理されたい。

【田中委員】 戦略的施策2「地域共生社会の実現に向けた環境づくり」について、(1)(2)と指標の関連性が分かりにくい。また、指標①と②の違いは何か。②については、2つの要素があり、市民が答えるのは難しい。

【久会長】 (1)(2)が似通っている。どのような違いがあると考えているか。

【事務局】 今後各論の内容とあわせて文言を精査する。指標は市民実感度調査で把握しているものである。各論にも指標が入るので、併せて検討する。

【久会長】 P.33(1)について、他と比較して文章が長いので、調整されたい。

【鐵東委員】 P.36の指標②地域経済循環率の達成に向けて、明確な戦略を立てているか。総論に記載している内容だけでは、目標値の達成が難しいと感じる。大きな取組がないと達成が難しいのではないか。

【久会長】 EBPMの観点で再度検討されたい

【森委員】 P.34地域共生社会の実現に向けた環境づくりについて、行政の取組と地域の取組をが混在している。(1)を行政の施策に関すること、

(2)を市民同士の支え合いに関することとすれば、整理できるのではないか。

【久会長】 続いて「第6章 行政改革の考え方(行政改革大綱)」について事務局から説明をお願いします。

【事務局】 (資料1 第6章(P.38)について説明)

【久会長】 行政改革推進委員会の委員長である森委員から意見を頂戴したい。

【森委員】 行政改革推進委員会でも議論を続けているが、総合計画と一体化することに対する不安の声がある。総合計画と行政改革大綱は、いわゆるアクセルとブレーキの関係だと捉えており、これまでの取組が緩むのではといった懸念の声がある。財政規律の件等、表現方法を精査している。

(2)その他

【久会長】 それでは、案件2「その他」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 (資料2、資料3-1、資料3-2について説明)

【清水委員】 子どもたちに、どのようなまちに住みたいか、どういったことを希望しているかを問う項目があると良いと感じた

【伊藤委員】 私の予想に反して、子ども達が主体的に参加する意欲があるということが分かった。自治会でも内容を反映しながら、子どもたちに参加してもらいたい。

【久会長】 小学生から中学生にかけて、生駒市を好きという割合が急減する。小中学生の傾向など分析すると様々なことが分かるのではないかと思う。

【事務局】 (庶務連絡、閉会宣告)

— 了 —